

下鶴遺跡

(伊佐市大口下殿字下鶴)

現地説明会資料

平成18年7月、記録的な豪雨が北薩地方を中心とする地域を襲い、川内川とその流域の河川が氾濫し、甚大な被害が出ました。

このことを受けて、大規模な河川改修が計画されましたが(川内川激甚災害対策特別緊急事業)、工事予定地に遺跡が存在していることがわかりました。

そこで、工事に先立って下鶴遺跡の発掘調査が行われることになりました。

伊佐市では、これまでに、下ノ原B遺跡と下殿瀬ノ上遺跡の発掘調査が行われています。



平成21年11月28日(土)



下ノ原B遺跡
(竪穴住居跡)



うずん
大住古墳
(地下式板石積石室)

川内川と人との関わり

川内川は、熊本県白髪岳を源とし、東シナ海に注ぐ長さ137kmの九州屈指の河川です。支流は109を数え、本遺跡は、その支流の一つである羽月川沿いにあります。今回の発掘調査のきっかけとなった川内川水系の氾濫は、これまでも数多く記録が残されています。記録が詳細になった1538年から今日までに合計200回近く、平均すると2年に1回の割合で洪水が起きていることとなります。また、もっとも古い記録としては天平18(746)年10月5日に「日向国風雨共発、養蚕損傷、仍免調庸」と『続日本紀』に記されています。

これまでの調査では、これらの氾濫の跡は見つかっていませんが、生活に必要な水を得るため、昔の人はどのような関わりをもって暮らしていたのでしょうか。発掘調査は、遺構や遺物といった「モノ」探だけでなく、当時の人々の生活の様子や願いを明らかにしていくことも大切です。

みなさんも、昔の伊佐の人々が、川内川と一緒にどのような生活を送っていたか、一緒に思いを巡らせてみませんか。

用語集

遺跡：昔の人々の生活・活動のあとで、集落跡・貝塚・水田跡・城館跡・古墳など、場所そのものを指します。

遺構：昔の人々の生活によって、地面に掘りこまれたり、造られたりしたもののこと。例えば、住居跡、溝跡、炉跡などがあります。

遺物：昔の人々が使った道具などです。石器や土器、木製品、金属製品などがあります。

土坑：地面に掘られた穴のことです。用途としては、お墓・貯蔵庫などがあります。

戈：長い柄の先に、柄と直角または斜めに短剣状の身を取り付けたもの。敵の頭か首に打ち込み、手前に引いて倒す武器です。

今後の調査について

弥生時代の土坑群と古墳時代の集落跡を中心に進めていきます。調査は3月まで行う予定です。

12月 堤防予定地の調査

1月 河川敷予定地の調査(3月まで)

下鶴遺跡調査事務所 0995-22-4007

埋蔵文化財センター 0995-48-5811

ホームページ <http://www.jomon-no-mori.jp>

下鶴遺跡全体図

見学時の注意

遺跡内では、職員の指示にしたがって、決められた場所以外には立ち入らないでください。
遺物や展示パネルにはお手を触れないようお願いいたします。(写真撮影は自由です)



発掘風景

時代区分

現代		
近世		
中世	約400年前	
古代	約800年前	
古墳時代	約1300年前	
弥生時代	約1700年前	
縄文時代	晩期	約2400年前
	後期	約3000年前
	前期	約4000年前
	早期	約6000年前
旧石器時代	草創期	約10000年前
		約12000年前
		約30000年前

下鶴遺跡の時代



竪穴住居跡がたくさん見つかりました。ここは、古墳時代のムラでしょうか？



弥生時代の土坑も多数見つかりました。形や大きさは様々です。



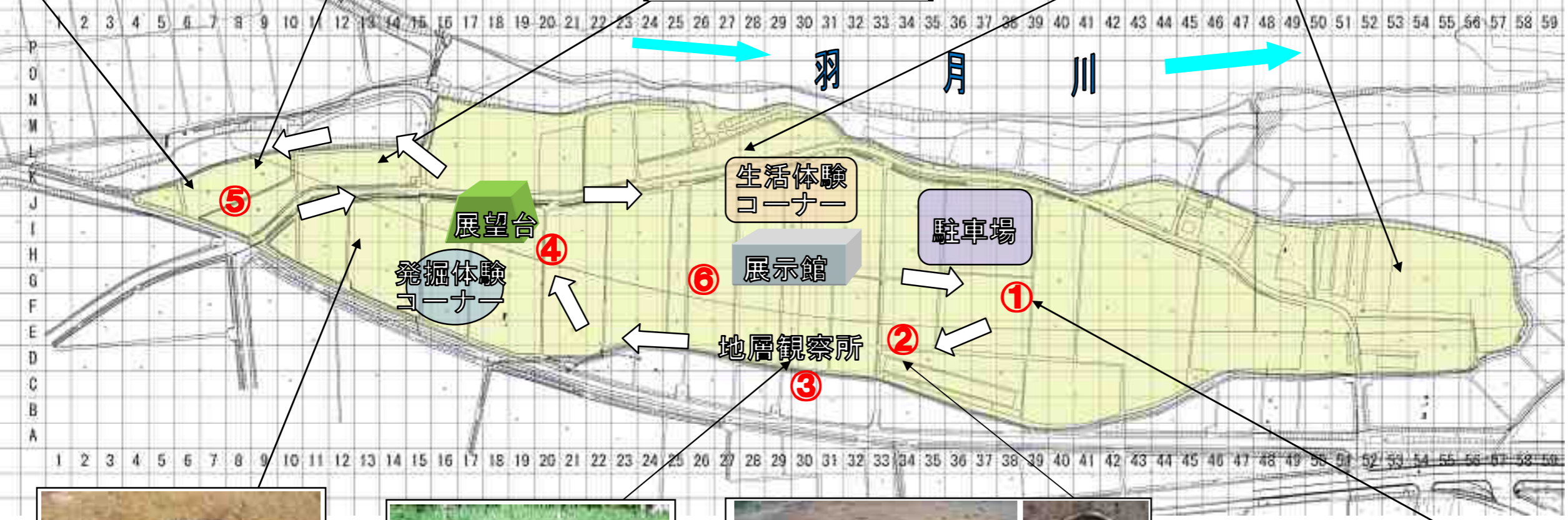
土坑の中から、青銅で作られた武器(戈)が見つかりました。弥生時代(約2200年前)のものと思われる。(本県初出土)



ここでも多数の土坑が見つかりました。江戸時代から昭和のころのお墓(土坑墓)のようです。



黒曜石の細かい破片が散らばっていました。石器づくりの場所だったのかもしれません。



縄文時代(約3500年前)の竪穴住居跡と思われます。表面には土器片が出土しています。



時期によって土の色が変わります。下の層になるほど、時代が古くなります。



古墳時代(約1500年前)の竪穴住居跡から、他の地域からもたらされた焼き物(須恵器)が見つかりました。伊佐の昔の人々の交流がうかがえます。



これらも古墳時代(約1500年前)の竪穴住居跡です。花びらのような形をしたものや、一部に出っ張りをもつものなどがあります。